

## (5) すいか

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
うどんこ病	シグナムWDG	ビラクトロピン・ホスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600～800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか	
	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000～5000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか	
	パレード2070アブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)	
	パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリフルミゾール水和剤	3,U6		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか	
	モルスタン水和剤	キネキサリン系水和剤	UN*,M10		2000～4000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか	
疫病	Zボルドー	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	すいか	
褐色腐敗病	フォリオゴールド	メタラキシルM・TPN水和剤	4,M5		800～1000倍	100～400 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	すいか	
	ホライズントライフロアブル	シモキサニル・ファモキサトロン水和剤	11,27		2500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
菌核病	パレード2070アブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)	
炭疽病	アントラコール顆粒水和剤	プロピネブ水和剤	M3		400～600倍	150～200 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
	ホキシラン水和剤	キャプタン・有機銅水和剤	M1,M4		500～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	すいか	
	シグナムWDG	ビラクトロピン・ホスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか	
	ストロビーフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	11		2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		700倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか	
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600～800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか	
	ニマイール水和剤	ジエトフェンカルブ・ベニミル水和剤	1,10		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか	
	ベルコート水和剤	ミノクタジナルベニル酸塩水和剤	M7		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
	つる枯病	アフェットフロアブル	ペンチオラト水和剤	7		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
		アントラコール顆粒水和剤	プロピネブ水和剤	M3		400～600倍	150～200 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
		シグナムWDG	ビラクトロピン・ホスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
ジマンダイセン水和剤		マンゼブ水和剤	UN*,M03		400～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか	
ストロビーフロアブル		クレソキシムメチル水和剤	11		2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
ダコニール1000		TPN水和剤	M5		700～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか	
パレード2070アブル		ピラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	3回以内	うり類(成熟)	
ベルコート水和剤		ミノクタジナルベニル酸塩水和剤	M7		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
ロブラル水和剤		イプロジオン水和剤	2		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
苗立枯病(リゾクニア菌)	バシタック水和剤75	メプロニル水和剤	7		750～1500倍	3 $\mu$ g/m <sup>2</sup>	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	すいか	
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	すいか	
べと病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	UN*,M03		400～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか	
アザミウマ類	アグリメック	アバメクチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アブラムシ類	アグロシリン乳剤	シペルメトリン乳剤	3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか
	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで(ただし、露地栽培については着果後)	散布	3回以内	すいか
	ウララDF	フロニカミド水和剤	29		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	ダントツ水溶剤	クロチアジソン水溶剤	4A		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	すいか
					1g/株		育苗期	株元処理	1回	すいか
	マブリック水和剤20	フルバネート水和剤	3A	劇	4000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	すいか
	モスピラン粒剤	アセチアミド粒剤	4A		1g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	すいか
	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
				500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか	
ウリノメイガ	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
ウリハムシ	ダントツ水溶剤	クロチアジソン水溶剤	4A		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
コナジラミ類	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか
タネバエ	ダイヤゾン粒剤3	ダイヤゾン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	すいか
ハスモンヨトウ	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
ハダニ類	アグリメック	アバメクチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	カネマイトフロアブル	アセキノシル水和剤	20B		1000～1500倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	1回	すいか
	バロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		2000倍	100～350g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか
ミナミキイロアザミウマ	ダントツ水溶剤	クロチアジソン水溶剤	4A		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか

## スイカ炭疽病対策

### 1 スイカ炭疽病について

スイカ炭疽病はコレトリカムというカビの一種によって引き起こされる病気である。発病適温は22～28℃で、湿度が高いと24時間以内に胞子が発芽し、48時間以内に組織に侵入し、1週間以内に発病する。特に、降雨があると病斑状の胞子が飛散し、他の茎葉、果実に伝染し、蔓延する。露地栽培ではトンネルを除去したところから発病しはじめ、気温が低く、雨の多い年に多発する。また、窒素過多でも発病が多くなる。

### 2 防除対策

#### 育苗期防除対策

- ・苗床やハウスでは多発することは少ない。
- ・苗床では高温多湿を避ける。
- ・苗床では発病前から予防散布を行い、健全な苗を確保する。
- ・発病を認めたら治療効果のある薬剤を7日おきに2～3回散布する。

#### 圃場防除対策

- ・連作は避ける。排水の悪い圃場は排水対策を実施する。
- ・降雨のはねかえりで感染するので、早めに敷きわらやポリマルチを行う。
- ・前年、炭疽病が発生した圃場は予防散布に努める。
- ・**ベンズイミダゾール系剤(トップジン、ベンレート等)は耐性菌が発生しているので使用しない。**
- ・不要な側枝は早めに除去し、採光と通風しをよくする。摘果玉は圃場内に放置せず、圃場外に持ち出すか埋設する。
- ・降雨後は、薬剤散布量を十分取り、果実表面にも十分薬剤が付着するように散布する。
- ・炭疽病の発生を確認したら、治療効果のある薬剤を5日おきに2～3回散布する。新しい病斑の形成がなくなったら、予防効果のある薬剤を7日おきに散布する。特に果実付近の防除を徹底する。
- ・収穫時に降雨があった場合、果実表面が濡れたり土壌が付着しているものは、コンテナに積み込む前に固く絞ったタオルで十分拭き取る。
- ・収穫終了後、発病株の罹病部位(葉や果実)は圃場外に持ち出し、埋設する。

#### 【参考】スイカ炭疽病防除薬剤一覧

FRAC コード	農薬の名称	使用時期 (収穫何日 前まで)	その他の適用病害虫									効果		
			つる 枯 病	疫 病	褐 斑 細 菌 病	べ と 病	菌 核 病	う ど ん こ 病	褐 色 腐 敗 病	ハ ダ ニ 類	果 実 汚 染 細 菌 病	予 防	治 療	
M03	アントラコール顆粒水和剤	前日まで	○										○	
	ジマンダイセン水和剤	7日前まで	○	○	○	○							○	
M01	ドキンフロアブル	前日まで	○									○	○	
M01	ICボルドー66D	-	○										○	
M01+M04	オキシラン水和剤	14日前まで	○										○	
M04	オーソサイド水和剤80	14日前まで	○			○							○	
M05	ダコニール1000	3日前まで	○										○	
4+M05	フォリオゴールド	7日前まで	○							○			○	○
11+M05	アミスターオブティフロアブル	3日前まで	○				○	○	○				○	○
11+7	シグナムWDG	前日まで	○				○	○	○				○	○
11	アミスター20フロアブル	前日まで	○										○	○
	ストロビーフロアブル	前日まで	○					○					○	○
2+M01	スクレタン水和剤	7日前まで	○		○		○						○	○
21+M05	ドーシャスフロアブル	3日前まで	○						○				○	○
M07+19	ポリバリン水和剤	前日まで	○					○		○			○	○
M07	バルクート水和剤	前日まで	○				○	○					○	
	バルクートフロアブル		○				○	○					○	
10+1	ゲッター水和剤	21日前まで											○	○
3+M03	テーク水和剤	7日前まで	○					○					○	○
3	スコア顆粒水和剤	前日まで	○					○					○	○

\*使用濃度、使用量、使用回数等は確認すること。